

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400473		
法人名	有限会社 寿楽		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	太宰府市高雄1-3664-256 (電話) 092-921-8780		
自己評価作成日	平成23年8月3日	評価結果確定日	平成23年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私達は、まず利用者の方が安心して暮らせるように努めています。そのために、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるように環境を整え、基本方針にある、笑顔が絶えないグループホームを目指して職員は毎日笑顔を絶やす事がないようにし、笑顔でいることで利用者やホーム全体の雰囲気もよく、また、職員が利用者一人ひとりの思いにそった個別支援を行うように支援しています。行事などの余興は、職員自らが楽しむことで利用者の方にも楽しんでもらっていると思います。毎週月曜日に地域の防犯パトロールに参加して、地域の人達と職員の交流も行っています。職員の定着率もよく、3年以上勤めている職員がたくさんいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成23年9月8日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街に溶け込んでいる雰囲気を持った事業所で、玄関横に菜園があり、野菜や花が植えられている。利用者と家族のような関係を大切にしており、それぞれの利用者がこれまで使い込んできた家具や調度品を居室に持ち込んでいるため、居室のそれぞれが居心地のよい雰囲気を持っている。代表者及び管理者も家庭的な雰囲気を大切にしており、一日のスケジュールがなく、ゆったりと過ごしていただけるような支援を行っている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、基本方針を全職員に覚えてもらうようにして、毎週月曜日の申し送り後に唱和し、理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を全職員で話し合っ決めて、その実践を具体的に基本方針の中に地域密着の視点を含めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（夏祭りなど）に呼んでもらっており、毎週月曜日には地域の方と一緒に地域のパトロールに参加している。また、事業所の餅つきには地域の方にボランティアで来ていただいている。	地域の防犯パトロールに利用者と週一回参加している。ふれあいサロンやベタンク、保育園との交流等の地域活動にも参加している。事業所での餅つき大会には、地域住民の参加もあり、専門学校等の実習生の受け入れを行っている。野菜のおすそ分けを地域の方からいただくこともある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防犯パトロールに利用者の方も参加して、地域の方に認知症の方と触れ合ってもらい、認知症の理解や支援の方法の情報交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を行い、事業所の状況などを報告し、意見交換を行っている。その意見を基にサービスの向上に活かしている。	利用者の状況やサービスの実際、評価への取り組み等を報告している。外出傾向のある方への支援方法や防災訓練について等の意見を得て、介護方法や災害対策等の介護に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方に参加していただき意見交換を行い、疑問に思ったことなどは電話や直接伺って担当者の方に聞くようにしている。	日頃から行政に相談や事業所の報告等を電話や窓口に出向き行っている。法人の10周年記念講演会を市とタイアップして実施する等、協力関係を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、見守りしながら自由に出たり入ったりできるような環境作りを取り組み、身体拘束マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしている。施設内研修も予定している。	玄関や居室に鍵は使用していない。外出傾向がある利用者に対しては、一日に何度でもさりげなく付き添う支援を行っている。地域住民の協力体制があり、実際に連絡をいただいたこともある。職員全員が参加して内部研修を実施しており、外部研修でも身体拘束に関する研修を受けている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で高齢者に対する虐待について学び、事業所内でも施設内研修を予定している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政書士の方をお願いしてカンファレンスにて講義をしてもらい、職員に学んでもらっている。	外部講師を依頼して全職員は権利擁護に関する研修を受けており、又、外部においても研修を受けている。テキストや研修記録もある。家族に対しても契約時や必要時に説明をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明を行い、その後疑問に思ったことがある時には、その都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の方や家族の方にも参加してもらい、その中で意見がないか聞くようにし、また、家族の方が来所された際にも、本人と家族の方を交えて話をするようにしている。	日々の利用者の様子を毎月家族に通信書として送付しており、その様子からも家族の意見が得られ易いようにしている。来訪時に声をかけるだけでなく、運営推進会議や年2回の家族会でも積極的に意見を出していただくようにしている。ベッド柵の使用方法や避難訓練、外出傾向のある利用者の支援方法等の意見を得て、サービス向上に活かしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別やカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、働きやすい職場をつくり、ケアに活かしていけるように心がけている。	月2回のミーティングに全職員が参加しており、意見を自由に述べるようにしている。シフトについての意見、掃除やシーツ交換時期等の意見が出され、運営に反映したり、サービスの向上に活かした。代表者及び管理者は気づきやアイデア等、何でも言い合える関係づくりに心がけている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に自分自身の評価をしてもらい、管理者と代表者が査定し年2回の賞与に反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集や採用にあたっては、年齢や経験、性別に関係なく行っている。本人のやる気やチームワークへの姿勢を重視している。前職の経験や趣味、知識を活用して生き生きと勤務し、資格取得や自己実現に向けて勤務を調整している。</p>	<p>採用選考では、意欲を重視しており、資格、年齢や性別等で排除してはいない。資格取得を職員が希望する際には勤務上の配慮をしている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修を通して職員には人権教育などの勉強をしている。また、内部での研修を予定している。</p>	<p>外部研修で新規職員は研修を受講しているが、他の職員は10月に内部研修で研修を実施予定している。外部研修の資料はあるものの、伝達研修は行っていない。</p>	<p>全職員が研修内容について共有できるように伝達研修を設けてほしい。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月2回のカンファレンスを行い、外部の研修にも積極的に参加してもらうようにしている。また、認知症指導者にカンファレンスで講義をってもらうようにしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修で同業者と交流する機会を作ってネットワーク作りやそれぞれの事業所に見学に行かせてもらい、情報交換などを行っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>センター方式を使用し、本人が困っていること不安に思っていることを本人より引き出しケアに活かしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス計画書を家族に説明する際に、要望を聞くようにしている。また、相談などはいつでも聞けるよう配慮し、入所される際には十分にこれまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の状態を把握し、家族が必要とすることを傾聴するようにし、サービスに活かしていくようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除したり、外出したりしてお互いが協働しながら安心安定した生活ができるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、その月の様子を家族の方に文書にして送り、情報の共有に努め、家族の方からの意見も聞き、利用者の方を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで使っていた馴染みの物などは持ってきてもらい、利用者の方の友人の方には、これからも継続して会いに来てもらうように働きかけている。	利用者の馴染みの場所や人については、入所時のアセスメント等で把握している。身内の葬儀や法事に利用者が参加できるように事業所で送迎を行ったり、できる限り家族に訪問していただく等の工夫もしている。訪問が難しい家族に対しては、電話や手紙のやり取りで関係が途切れないようにしている。知人や友人が時折訪問されている利用者もある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しく過ごせる時間や気の合う人同士で過ごせる空間作りをし、利用者の方同士の関係がうまくいくように職員が間に入り支援するようにしている。また、一人になりたい利用者の方がいる時も見守りしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所することになっても、御家族の方には相談や連絡できる関係に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉や表情から読み取ろうと努め、困難な場合はカンファレンスで取り上げ検討するようにしている。	日々の関わりの中で利用者の言葉や表情、動きから思いの把握に努めている。「家族に会いたい」との意向があれば家族への来訪を促している。意思疎通が困難な利用者には、利用前の生活歴・既往歴等把握しながら、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された際に御本人と御家族にこれまでの生活歴や生活環境、馴染みの物だつたりを聞きだし、把握するように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、状態を記録し、生活リズムを理解し、職員全員が把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度モニタリングを行い、職員全員で意見交換を行い、御利用者の方や御家族にも思いや意見を聞き、反映させるようにしている。	介護計画は、利用者の日々の暮らしを記した具体的な記録を基に、全職員で意見交換を行い、担当者が作成している。6ヵ月毎に、また、利用者の状態変化に応じて、介護計画を見直している。作成後は家族へ説明し、署名押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方の日々の様子や状態を職員からみた気づきとしてケア記録に記載し、職員間で情報を共有するように徹底している。また、個別記録をもとに介護計画を見直し、評価を実施している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況でその時々生まれるニーズに対してカンファレンスで取り上げ職員全員で意見交換しし、本人や家族と話し合い、それをサービスにつなげていくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	センター方式を使用し、家族や本人から聞き出すことで地域資源を把握するようにし、安全で安心した生活をしていくように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される以前のかかりつけ医の病院となっているが、事業所の協力医療機関での医療も受けられるようにし、職員と一緒に受診している。御家族が希望した際には一緒に受診している。診察結果や主治医からの指示も家族に報告している。	本人や家族の希望を大切にし、以前のかかりつけ医が、全て協力医になってもらっている。受診や通院は、家族同行もあるが、基本的に職員が同行している。歯科は月1回の訪問診療、治療の場合は週1回となっている。受診時の情報は電話・文書で報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の状況を看護師に報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には状況を医療機関に報告し、病院に頻りに職員が行くようにして着替えの洗濯を事業所で行うようにし、その際に主治医に状態などを伺うようにしている。早期退院ができるようにアプローチを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、契約時に終末期のことについて話し合い、その後状況が変化して重度化していくにつれて家族と本人の思いを話し合っていくように取り組んでいる。また、終末期のマニュアルも作り、職員にも見てもらうようにしている。	看とりに関する指針を明文化している。利用者・家族等と話し合い、利用者や家族の意向を大切にししながら、利用者・家族・かかりつけ医・職員が方針を共有し、全員で支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、すべての職員に読んでもらい、心肺蘇生の研修も外部研修で行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の方に来所していただき、指導してもらうようになっている。また、地域の方には訓練を行う前にお知らせして参加の声掛けしている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。近隣の人には、訓練への参加を呼びかけ、協力体制を築いている。非常用食料・飲料水・備品等は事業所内に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスで職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方を考えてもらい、利用者の方の誇りやプライバシーを損ねない対応の仕方を徹底している。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけている。内部研修で個人の尊厳やプライバシーの保護について話し合い、周知を徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位のケアにならないように気をつけ利用者本位のケアをしていくように思いや希望をじっくり聞くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れは決まっているが、一人ひとりの体調に配慮し、その時の思いを大切に、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意向で決めながら、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定ができない利用者の方には職員と一緒に手伝うようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえを一緒に行っており、また片付けも共に行っている。誕生日の時にはその方の食べたい物、好きな物を出すようにしている。	利用者と職員は、一緒に下ごしらえや片づけを行っている。職員は利用者と楽しく会話しながら、見守り介助をしている。事業所の菜園で育てた野菜（きゅうり・トマト・ピーマン）を調理する等、また、誕生会には、本人の希望を考慮し、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥や刻み食など、利用者の方の状態にあった食事に行っている。また、栄養が足りてない利用者の方には栄養補助食品を食べてもらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1度、訪問歯科より利用者の方全員の口腔ケアを行ってもらい、また、職員にも訪問医より磨き方の指導もしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促すようにしている。	排泄チェック表を使用し、さり気なく誘導している。トイレでの排泄を大切に、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。夜間時の紙パンツ等は利用者に応じて検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体を動かすことによって、便秘の改善に努め、主治医にも相談し、それぞれに応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、その方の体調や希望に合わせて入浴するか決めている。また、入られない時は足浴してリラックスしてもらえるように促している。仲の良い利用者の方が一緒に入られることもある。	入浴日等の大まかな設定はあるが、利用者の希望等にあわせて、毎日の入浴もできる。入浴を拒否される利用者には、言葉かけを工夫したり、職員と一緒に入浴したり、足浴にする等、個々に沿った入浴の支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく、日中は活動を促して、生活リズムを整えるように努めている。また、本人の体調や表情、希望に考慮してゆっくり休息できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたりした時は記録し申し送りをすることにより、職員全員に把握してもらい、服薬時には職員同士で確認をし本人に手渡し、きちんと服薬したのかの確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や庭いじり、編み物など一人ひとりの力を発揮してもらうようにし、ここで一緒に暮らしているという思いを感じてもらうように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は玄関の鍵をかけないようにしているの で外に行きたいと希望があった時には気軽に 行けるようにしている。天気がいい日はドラ イブに行ったり、買い物の日を作り、希望さ れた方は買い物に行っている。	利用者の体調に合わせて、日常的に散歩を心が け、買い物は喜ばれている。レストランでの 外食や年行事のイベントでドライブを兼ね、 かまど神社・大宰府天満宮・宇美八幡宮等に 出掛けている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人 もいる。家族より事業所にお金を預かり管理 している人でも買い物の日はその中で買い物 してもらうように職員が支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方と連携をとり、本人の希望にそって 電話できる環境を作るようにしている。また、 知人に手紙を書いている方や職員の支援 で家族に手紙を書いている方もいる。年賀状 は全利用者の方が出しており、それぞれ職員 が支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾ったり、廊下には 外出した時の写真を飾ったりしている。障害 物もないように安心して過ごせるように心が けている。	ウッドデッキ、リビングや廊下にはソファー や椅子を置き、仲の良い利用者同士が寛げる スペースがある。リビング一角の和室には、 古風な調度品を置き、落ち着ける居場所づく りや環境づくりに配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に大きなソファを2つ置いて気の合う利用者の方向士でくつろげるスペースを作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた日用品、馴染みの物を持ってきてもらい部屋に置いて、居心地良く過ごしてもらえる環境作りをしている。事業所で撮った写真もアルバムにして部屋に置いてもらっている。	本人・家族と相談しながら、ベッド・ソファ・三面鏡・TV等、以前自室で使用していた馴染みの家具を持ち込み、掛け軸や好みの物、家族写真も飾られ、利用者それぞれが居心地良く過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下に手すりをつけているので歩ける方はできるだけ本人が自立して歩いてもらえるようにし、職員が見守り支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、基本方針を全職員に覚えてもらうようにして、毎週月曜日の申し送り後に唱和し、理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（夏祭りなど）に呼んでもらっており、毎週月曜日には地域の方と一緒に地域のパトロールに参加している。また、事業所の餅つきには地域の方にボランティアで来ていただいている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防犯パトロールに利用者の方も参加して、地域の方に認知症の方と触れ合ってもらい、認知症の理解や支援の方法の情報交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を行い、事業所の状況などを報告し、意見交換を行っている。その意見を基にサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方に参加していただき意見交換を行い、疑問に思ったことなどは電話や直接伺って担当者の方に聞くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、見守りしながら自由に出たり入ったりできるような環境作りに取り組み、身体拘束マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしている。施設内研修を予定している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修で高齢者に対する虐待について学び、事業所内でも施設内研修を予定している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政書士の方をお願いしてカンファレンスにて講義をしてもらい、職員に学んでもらっている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明を行い、その後疑問に思ったことがある時には、その都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の方や家族の方にも参加してもらい、その中で意見がないか聞くようにし、また、家族の方が来所された際にも、本人と家族の方を交えて話をするようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別やカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、働きやすい職場をつくり、ケアに活かしていけるように心がけている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に自分自身の評価をしてもらい、管理者と代表者が査定し年2回の賞与に反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては、年齢や経験、性別に関係なく行っている。本人のやる気やチームワークへの姿勢を重視している。前職の経験や趣味、知識を活用して生き生きと勤務し、資格取得や自己実現に向けて勤務を調整している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修を通して職員には人権教育などの勉強をしている。また、内部での研修を予定している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回のカンファレンスを行い、外部の研修にも積極的に参加してもらうようにしている。また、認知症指導者にカンファレンスで講義をってもらうようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で同業者と交流する機会を作ってネットワーク作りやそれぞれの事業所に見学に行かせてもらい、情報交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用し、本人が困っていること不安に思っていることを本人より引き出しケアに活かしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書を家族に説明する際に、要望を聞くようにしている。また、相談などはいつでも聞けるよう配慮し、入所される際には十分にこれまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の状態を把握し、家族が必要とすることを傾聴するようにし、サービスに活かしていくようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除したり、外出したりしてお互いが協働しながら安心安定した生活ができるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、その月の様子を家族の方に文書にして送り、情報の共有に努め、家族の方からの意見も聞き、利用者の方を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで使っていた馴染みの物などは持ってきてもらい、利用者の方の友人の方には、これからも継続して会いに来てもらうように働きかけている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しく過ごせる時間や気の合う人同士で過ごせる空間作りをし、利用者の方同士の関係がうまくいくように職員が間に入り支援するようにしている。また、一人になりたい利用者の方がいる時も見守りしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所することになっても、御家族の方には相談や連絡できる関係に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉や表情から読み取ろうと努め、困難な場合はカンファレンスで取り上げ検討するようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された際に御本人と御家族にこれまでの生活歴や生活環境、馴染みの物だつたりを聞きだし、把握するように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、状態を記録し、生活リズムを理解し、職員全員が把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度モニタリングを行い、職員全員で意見交換を行い、御利用者の方や御家族にも思いや意見を聞き、反映させるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方の日々の様子や状態を職員からみた気づきとしてケア記録に記載し、職員間で情報を共有するように徹底している。また、個別記録をもとに介護計画を見直し、評価を実施している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況でその時々生まれるニーズに対してカンファレンスで取り上げ職員全員で意見交換しし、本人や家族と話し合い、それをサービスにつなげていくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	センター方式を使用し、家族や本人から聞き出すことで地域資源を把握するようにし、安全で安心した生活をしていくように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される以前のかかりつけ医の病院となっているが、事業所の協力医療機関での医療も受けられるようにし、職員と一緒に受診している。御家族が希望した際には一緒に受診している。診察結果や主治医からの指示も家族に報告している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の状況を看護師に報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には状況を医療機関に報告し、病院に頻繁に職員が行くようにして着替えの洗濯を事業所で行うようにし、その際に主治医に状態などを伺うようにしている。早期退院ができるようにアプローチしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、契約時に終末期のことについて話し合い、その後状況が変化して重度化していくにつれて家族と本人の思いを話し合っていくように取り組んでいる。また、終末期のマニュアルも作り、職員にも見てもらうようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、すべての職員に読んでもらい、心肺蘇生の研修も外部研修で行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の方に来所していただき、指導してもらうようにしている。また、地域の方には訓練を行う前にお知らせして参加の声掛けしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスで職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方を考えてもらい、利用者の方の誇りやプライバシーを損ねない対応の仕方を徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位のケアにならないように気をつけ利用者本位のケアをしていくように思いや希望をじっくり聞くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れは決まっているが、一人ひとりの体調に配慮し、その時の思いを大切に、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意向で決めながら、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定ができない利用者の方には職員と一緒に手伝うようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえを一緒にしており、また片付けも共に行っている。誕生日の時にはその方の食べたい物、好きな物を出すようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥や刻み食など、利用者の方の状態にあった食事に行っている。また、栄養が足りてない利用者の方には栄養補助食品を食べてもらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1度、訪問歯科より利用者の方全員の口腔ケアを行ってもらい、また、職員にも訪問医より磨き方の指導もしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促すようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体を動かすことによって、便秘の改善に努め、主治医にも相談し、それぞれに応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、その方の体調や希望に合わせて入浴するか決めている。また、入られない時は足浴してリラックスしてもらえるように促している。仲の良い利用者の方が一緒に入られることもある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく、日中は活動を促して、生活リズムを整えるように努めている。また、本人の体調や表情、希望に考慮してゆっくり休息できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたりした時は記録し申し送りをすることにより、職員全員に把握してもらい、服薬時には職員同士で確認をし本人に手渡し、きちんと服薬したのかの確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や庭いじり、編み物など一人ひとりの力を発揮してもらうようにし、ここで一緒に暮らしているという思いを感じてもらうように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は玄関の鍵をかけないようにしているので外に行きたいと希望があった時には気軽に行けるようにしている。天気がいい日はドライブに行ったり、買い物の日を作り、希望された方は買い物に行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族より事業所にお金を預かり管理している人でも買い物の日はその中で買い物してもらうように職員が支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方と連携をとり、本人の希望にそって電話できる環境を作るようにしている。また、知人に手紙を書いている方や職員の支援で家族に手紙を書いている方もいる。年賀状は全利用者の方が出しており、それぞれ職員が支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾ったり、廊下には外出した時の写真を飾ったりしている。障害物もないように安心して過ごせるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に大きなソファを2つ置いて気の合う利用者の方同士でくつろげるスペースを作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた日用品、馴染みの物を持ってきてもらい部屋に置いて、居心地良く過ごしてもらえる環境作りをしている。事業所で撮った写真もアルバムにして部屋に置いてもらっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下に手すりをつけているので歩ける方はできるだけ本人が自立して歩いてもらえるようにし、職員が見守り支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない